



諫高だより

ふじ むらさき
藤 紫長崎県立諫早高等学校
〒854-0014 諫早市東小路町1番7号
TEL 0957(22)1222 FAX 0957(22)5104
<http://www.isahaya-highschool.ed.jp>

誠実に生きる

校長 石部邦昭

誠実さと潔さ

昨年、世相を表す漢字として全国から公募し選ばれたのが「偽」。「偽」には「いつわる、だます」、「にせ、にせもの」、「作為」という意味が含まれていて、決して心地よい言葉ではない。食品偽装、耐震強度偽装、年金記録、伝統ある土産品や老舗料亭の「うそ」、その「うその勢い」は今年になっても一向に衰えず連日マスコミを賑わせている。また、謝罪会見にでてくる責任者のインタビューに更に「偽」が含まれ、国民のひんしゆくを買っている。なぜ、最初から「すべて自分の責任で申し訳ない」ということを言わないのだろうか。人間としての「誠実さと潔さ」がないと感じるのは私だけだろうか。

八木橋雄次郎の「通信簿」という詩がある。

「我が子よ 通信簿に記載された評価が思わしくないからと涙を流すことは やめよ
父は信じている。おまえは これまで1円の金もごまかしたことがなかったことを
友達との約束は いつも果たしてきたことを

そして 幼い者をかわいがり 弱い者をいたわってきたことを

その潔白と信義と親切とは 人間として生きていくための至上のものだ

それなのに おまえの通信簿のどこに そのことが記載されているというのだ

我が子よ 涙を流すことは やめよ おまえの父と母が目ざしている

もっともっと大きな通信簿に向かって 歩いていこうではないか」

本校は心豊かで「人としての誠実な生き方」を追求し、「人の役に立つような人材育成」を教育の柱としている。潔白と信義、親切。通信簿で面談で伝えられないだろうか。

友情のメダル

北京五輪が近づいている。数々のドラマと名勝負を生んできた五輪。中でも第11回ベルリンオリンピック（昭和11年・1936年）の棒高跳びの話は感動的である。

同大会で1位は4m35cmを跳んだアメリカの選手に決まったものの2、3位は日本人同士の争いとなり、4m25cmを跳んでいた大江季雄と西田修平両選手の間で、雨中での5時間に及ぶ熱戦が繰り広げられた。その後も勝負がつかず、両名は競技を打ち切るように審判に要請、それが認められた。要請の理由は「同じ日本人同士が争うべきではない、二人とも銀メダルになる」との判断だった。しかし、審判の裁定は4m25cmを1回目に跳んだ西田を2位、2回目に跳んだ大江を3位にした。しかし、翌日の表彰台では前回の五輪で銀メダルを獲得していた西田は2位の表彰台を大江に譲った。それは4年後に東京で開かれる五輪でも彼に頑張っただけという西田の激励の気持ちでもあった。

帰国後2人は「ルール上は2人とも銀メダルだったのだから」と銀メダルと銅メダルを真っ二つに切断。それをつなぎ合わせて、半分銀、半分銅のメダルを作り、お互いが持ち合うことにした。それは、お互いの健闘を称え合う、友情のメダルになり、当時全国民に大きな感動を与えた。

しかし、東京で開かれる予定の五輪は、第2次世界大戦のため中止。さらに1941年、大江はフィリピンのルソン島で銃弾を浴び帰らぬ人になった。

諫高から五輪へ

北京五輪に本校からも出場することになった。森岡紘一朗選手（平成16年卒業、現富士通）である。6月30日、日本陸連が発表した。本校では平成4年、野球で出場した小島啓民選手（昭和57年卒業、現三菱重工業）以来16年ぶり3人目である。

高校時代都大路を目指しながら、「自分の適性は競歩にある」と一大決心してから苦節7年、「日本一になり、日の丸をつける」との恩師松元教諭との約束を見事に果たした。

明るく誠実で優しい人柄は、こつこつと努力を続ける本校生そのものの姿であり、我慢強さを要求される競歩にぴったりといえる。北京の街並みを誠実に一歩々進む森岡選手の姿は諫高の誇りであり、我々も母校から力強く後押ししたいものである。健闘を祈る。

平成20年度(第60回)長崎県高等学校総合体育大会報告



平成20年度高総体開会式



歓迎の挨拶(小森 浩貴)

平成20年度の高総体は中地区を主会場として行われました。諫早の陸上競技場で行われた開会式では、前生徒会長小森君による歓迎の挨拶がありました。

フェンシング部インターハイ出場!

フェンシング男子が団体優勝し、インターハイに出場します。陸上・弓道は総合4位。ソフトボールが3位。バドミントン男女、剣道女子がベスト8に入りました。

個人競技では、陸上、フェンシング、弓道の3種目で九州大会出場が決まっています。

会場まで応援に来ていただいた保護者の皆様ありがとうございました。



陸上部インターハイ出場!

陸上部は18種目、のべ19人の選手が北九州大会に出場しました。その結果以下の6名の選手がインターハイ出場を決めています。

北九州大会結果

男子1500m 3位 2-2 茅原祐也
6位 2-1 松本拓也
女子走り高跳び6位 3-6 榎嶋公子
女子1500m 5位 2-3 末吉茜
女子走り幅跳び4位 3-1 板山瑤子
女子3000m 3位 3-2 中村知可子

平成20年度高総体主な結果

- * フェンシング優勝（インターハイ出場決定）
- * ソフトボール3位
- * 弓道男子 4位
- * 陸上男女総合4位
- * バドミントンが男女ベスト8
- * 剣道女子ベスト8
- * 弓道女子ベスト8

詳細は以下の URL

http://www.isahaya-highschool.ed.jp/bukatu/H20_taikai/koutairen/H20kekka-2.pdf



弓道男子団体 4位



接戦で勝利した長崎工業戦



長崎南高に勝利したラグビー部



運動公園陸上競技場での諫高大応援団



雨の中の激闘、海星高戦



ソフトボール 3位

各部とも新チームとなり、新しいキャプテンのもと、毎日頑張っています。

理数科生物班九州大会出場！

6月11日(水)に実施された長崎県理数科高等学校課題研究発表大会で本校2年生の生物班「ペーパーマッシュルーム(プリントをゴミにしないために)」が最優秀に選ばれ、8月7、8日に沖縄で開催される「中国・四国・九州地区大会」に出場が決まりました。

なお優秀賞には本校3年生の「ウツボカズラの消化作用について」が選ばれています。



進路講演会



1年生(6月7日)



2年生(6月21日)



3年生(6月21日)

障害者スポーツ大会に参加！

5月25日(日)に行われた障害者スポーツ大会に本校卓球部がボランティアとして参加しました。



障害者スポーツ大会

進路講演会 各学年テーマ

- 1 学年「人生における高校生活の意義」
「初めての全国実力試験に向けて」
- 2 学年「志望実現に向けて、2年生をいかに過ごすか」
- 3 学年「センター試験200日前！
～何をすべきか～」

理数科2年エネルギー研修

6月19日(木)に理数科2年生が玄海原子力発電所の見学に行きました。その後、佐賀大学海洋エネルギーセンターと佐賀大学生物資源センターの2つのコースに分かれて研修を行いました。



玄海原子力発電所

7月の行事予定

- 7月5日：土曜学習会・理数科講演会
- 7月8、9日：クラスマッチ(補習なし)
- 7月12、13日：校外模試
- 7月14日：3年生理数科課題研究発表大会
- 7月15～17日：三者面談(40分授業)
- 7月18日：全校集会・大掃除・壮行式
- 7月19日～：夏期特別学習前期
- 7月21～25日：学習合宿①
- 7月26、27日：対外模試③、ハイレベル模試
- 7月29日：学部学科研究会②
- 7月31日：理数科大学訪問、進路講演会③